

## 読み手の年齢差による海外文学の訳し分け

### —立間祥介訳『聊齋志異』の日本語訳—

#### A Study on the Expression Targeting Child : Translation of “Liao-chai-chih-i” by Pu Songling

湯 浅 千映子\*

Chieko YUASA

#### 1 はじめに

文章の書き手は、対象となる読み手に配慮し、その表現にちがいを出すことがある。特に海外翻訳作品の場合、訳者は、元となる原話を「一般／子ども」といった読み手の年齢層に合わせ、その訳された表現を変えることがある。この現象をここでは「訳し分け」と呼ぶ。以下の例は、いずれも『聊齋志異（りょうさいしい）』に収録された作品で、aが一般向けの訳、bが子ども向けの訳である。

a ひとりの百姓が市場で梨を売っていた。甘くて香りがよかったので、高く売れた。そこへひしゃげた頭巾にぼろぼろの衣という道士がやってきて、一つ恵んでくれと言った。百姓はだめだめと追い払ったが、立ち去ろうとしない。声を荒げてののしと、道士が言った。

b ひとりの百姓が市場で梨を売っていた。甘くて香りがよかったので、良い値で売れた。そこへひしゃげた頭巾にぼろぼろの衣という道士がやってきて、一つ恵んでくれと言った。百姓はだめだだ

めだと追い払おうとしたが、立ち去ろうとしない。「だめだというのが、わからないのか」とののしと、道士がいった。 「道士と梨の木」

a 歴城県（山東省）の殷天官は、若いころ貧乏していたが、豪胆で知略にとんでいた。城内に旧家の屋敷があつて敷地は数十畝（ぼう）もあり、楼閣が軒を連ねていたが、怪しいことがよく起こるというので、住む人もないままいつか雑草が生いしげり、白昼でも立ち入ろうとする者もなかった。  
b 歴城県（山東省）の人で都で大臣に出世した殷なにがしは、若いころ貧乏していたが、頭がよく、恐いもの知らずだった。その頃、町に一軒の古屋敷があつた。広大な敷地に、二階建ての建物が並んでいたが、化け物が出るとかいうことで、住む人もないままにいつか雑草が生いしげり、白昼でも立ち入る者がなかった。 「狐の嫁入り」

a 車という生員は、家に十分な蓄えがあつたわけでもないのに、酒に目がなく、夜も酔いつぶれるまで飲まなければ寝つくことができなかつたので、枕もとの酒瓶に酒を欠かしたことがなかつた。

b 受験生の車は、貧乏していたのに、酒がすきで、夜も大きな杯で三杯は飲まなければ寝つくことができなかつた。それで、枕もとの酒瓶をいつもい

\* ゆあさ・ちえこ  
関東学園大学経済学部専任講師

っぱいにしておいた。

「飲み仲間」

書き手自身とは異なる存在である「子ども」を意識して書かれた「子ども向け」の訳を、読者の「子ども」がたやすく理解するには、どんな言語的要素が必要とされるのだろうか。そもそも、子ども向けに訳したその動詞は、実際、一般向けより訳もやさしいと言えるのだろうか。こうした点に着眼し、一般向けの翻訳の文章と子ども向けに訳された文章を比較することで、その「訳し分け」の実態を明らかにする。

## 2 分析資料・分析方法

海外の文学作品の翻訳で、同じ原作を同一人物の訳者が訳しつつも、その対象年齢が「一般向け／子ども向け」と異なることで、訳出された表現に差異が見られるものであり、その「一般向け」と「子ども向け」の両作品がほぼ同時期に「訳し分け」られた「完訳」作品という条件で、蒲松齡（1640-1715）の怪奇幻想小説集『聊齋志異』の日本語訳を分析資料に選んだ。

中国文学者の立間祥介（たつましょうすけ・1928-2014）は、『聊齋志異』全十二巻、四九四編の中から九十二編を選んで訳し、1997年に岩波文庫から上・下巻を翻訳して出版、さらにその中から代表的な三十一話を訳し、同年、岩波少年文庫として出版された（対象年齢の記載には、「中学以上」とある）。

両書の各話の題目を比べて見ると、その「訳し分け」の一端がうかがえる。以下は、一般向けと子ども向けでその題目が異なる作品の一覧である。

【一般向け】

【子ども向け】

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 蟋蟀（こおろぎ） | コオロギと少年           |
| 義侠の亡者    | 義理固い亡者            |
| 古戦場の怪    | 古戦場の化け物           |
| 漢水の妻     | 呉王廟（ごおうびょう）のガラス集団 |
| かわいい猟犬   | 小さな猟犬             |
| 美女の首     | 首のすげかえ            |
| 兄弟再会     | 兄と弟               |
| 冥界の登用試験  | 冥土の試験             |
| 可憐な幽鬼たち  | かわいい幽鬼たち          |
| 妖婆       | 水を噴く妖婆            |
| 蘇った美女    | 生き返った美女           |
| 鬼の国      | 鬼の国と竜宮城           |

一般向けの「蟋蟀（こおろぎ）」を子ども向けで「コオロギと少年」と登場人物を追加したり、一般向けの「義侠の」を子ども向けで「義理固い」とするなど、表現のちがいが見られる。本稿では、上記の岩波文庫版と岩波少年文庫版に共通して見られた作品・二十九編を分析資料に、一般向け訳と子ども向け訳で、同じ情報・同じ内容で対応し、表現が異なる部分を抽出する。まず、「訳し分け」に伴う形式的特徴のちがいの全体像を概観した上で、その中で、一般向け訳と子ども向け訳で動詞と動詞が対応する訳し分けの例について、その難易度を検証する。

同じ事態を伝える際、子ども向けでは、一般向けの語と相互に類義関係にある表現が選ばれる。

例えば、一般向けで「設ける」と訳す場合、「前に香机（こうづくえ）が設けてあった」（一般向け訳）に対し、「前に香を焚く鼎（かなえ）や供物が並べられた机が置いてあった」（子ども向け訳）と「置く」とされる場合や「主人は宴席を設けて大臣たちを招待し」（一般向け訳）に対し、「侍従武官は盛大な酒宴を開いて大臣を招待し」

(子ども向け訳)と、「開く」を言い当てる場合もある。このように、動詞の場合、表現が一つに固定されず、多様に置き換え可能であることから、「動詞対動詞」の訳し分けに焦点を絞り、分析する。その中で、一般向け訳、子ども向け訳とも、「教育基本語彙データベース」に収録される語に分析の範囲を定め、185組の訳し分けのペアを抽出し、これを分析対象とする。各種語彙表のレベルや教科書の初出情報をもとに、その訳語の難易度により分析し、その訳出過程における描写のちがいについて見ていく。

### 3 子ども向けの訳し分けに伴う形式上の差異

#### A 「一般向け／子ども向け」が同じ品詞の語の間で対応する訳

《動詞—動詞》

- ① a 息子はびっくりして、泣き泣き母親に告げた。  
 b 息子はびっくりして、泣き泣き母親に話した。  
 (コオロギと少年)
- ② a 公はそこで当年これを手に入れた顛末を物語ったものだが、  
 b 般はそこで、若いとき、それを手に入れたいきさつを話してやったのである。(狐の嫁入り)
- ③ a 石を起こしたり穴を掘ったり、打てるだけの手を打ったが、  
 b 石をひっくり返してみたり、穴を掘ってみたり、打てるだけの手を打ってコオロギを探し回ったが、  
 (コオロギと少年)
- ④ a なかなか及第できずにいた。  
 b なかなか合格できずにいた。  
 (首のすげかえ)

《形容詞—形容詞》

- ⑤ a どれも始めて目にする珍奇なものばかりだった。

b どれも初めて目にするめずらしいものばかりだった。  
 (菊の姉弟)

《副詞—副詞》

- ⑥ a その異常な能力をつぶさに言上した。  
 b その異常な能力をくわしく申し上げた。  
 (コオロギと少年)

#### B 「一般向け／子ども向け」が異なる品詞間で対応する訳

《名詞—動詞》

- ⑦ a 所持金を使い果たし、  
 b 陶は家から持ってきた金をたちまち使い果たし、  
 (かわいい幽鬼たち)

《動詞—名詞》

- ⑧ a 菊を売ることもやめて、貴族をも凌ぐ豊かな日々を過ごした。

b 菊を売ることもやめて、貴族以上の豊かな日々を過ごした。  
 (菊の姉弟)

《動詞—形容詞》

- ⑨ a 狐はなかなかの酒豪のうえ座談にも長けていて、  
 b 狐はなかなかの酒豪だったうえ、話もうまかったので、  
 (飲み仲間)

#### C 「一般向け／子ども向け」が語と句で対応する訳

《動詞—副詞+動詞》

- ⑩ a そろりそろりと寝台に近寄ってくると、顔見合わせて微笑んだ。  
 b そろりそろりと寝台に近寄ってくると、顔を見合わせてくすくすと笑った。  
 (かわいい幽鬼たち)

《連語—動詞》

- ⑪ a 肝をつぶし、がたがた震えながら立ち上がりかけたとき、

b 李はぞっとして、がたがた震えながら立ち上がりかけたとき、  
(犬神)

《動詞一連語》

⑫ a 土地の生員陶望三は、磊落(らいらく)な男で、(略) 部郎から認められることとなった。

b 土地の陶望三は、太っ腹な男で、局長から気に入られていた。  
(かわいい幽鬼たち)

⑬ a 礼を言って帰りがけに魚を贈ろうとすると、「とんでもないこと」と固辞して、

b 礼をいって、帰りがけに魚を贈ろうとすると、「とんでもありません」と手を振った。

(義理固い亡者)

この他、a 「雲が湧くといった珍しいことは一向に起こらず、久しくするうち誰も顧みることもなくなった。」に対し、b 「雲が湧くといった珍しいことは一向に起こらなかったの、しばらくするうち、みなに忘れられてしまった。」のように、一般向けの動詞の意味を打ち消し、子ども向けで反転させて対応させる例もあった。

#### 4 訳し分けに伴う語種の変換

まず、訳し分けに伴って起こる語種の変換を見ておこう。一般向けの漢語サ変動詞を、子ども向けに和語にするといった、一般向けから子ども向

表1 一般向け訳・子ども向け訳の語種構成

| 一般/子ども    | 延べ  |       | 異なり |       |
|-----------|-----|-------|-----|-------|
|           | 数   | %     | 数   | %     |
| a 和語/b 和語 | 116 | 62.70 | 107 | 63.31 |
| a 漢語/b 和語 | 37  | 20.00 | 35  | 20.71 |
| a 和語/b 漢語 | 18  | 9.73  | 16  | 9.47  |
| a 漢語/b 漢語 | 14  | 7.57  | 11  | 6.51  |
| 計         | 185 | 100   | 169 | 100   |

けへの語種の変換パターンを表1に示した。その結果、一般向けで和語に訳されたものを小学生向けに語種を変えず、和語にする例が6割以上を占める。次いで、一般向けの漢語を和語にして訳す例が見られた。漢語の中には、「命じる」・「拝する」といった「1字漢語+する(じる)」形も含まれている。

児童読物を対象に語彙の量的構造を分析した野村・柳瀬(1978:92)によれば、児童読物全体の語種構成について、一般の新聞、雑誌に比べ、和語の比率が高く、また、児童読物の中では、高学年よりも低学年で、ノンフィクションよりもフィクションで、和語の出現率が高い傾向があるという。また、湯浅(2015)では、海外の児童文学の翻訳を対象にその語種構成を調査を行った。そこでも「a 和語/b 和語」の訳し分けが7割近くを占めており、文学作品に共通の特徴と言える

和語の中では、複合動詞が多く見られる。a 「そこで、朱の家へ出かけていって、朱を詰問した」、b 「朱を問い詰めた」のように、一般向けの2字漢語「詰問」の字音形態素を分解し、子ども向けで和語化したものを組み合わせる複合動詞にする例、a 「騎馬の従者たちが馬から下りてきて事の次第を聞きとり、役人に報告した」、b 「騎馬の従者たちが馬から下りてきてことの次第を聞き、役人に報告した」と後項を省く例、反対にa 「邢の息子は石のかけらを拾い集めて帰り、もとどおり墓に埋めた」b 「邢の息子は石のかけらを拾い集めて持ち帰り、もとどおりに邢の墓に埋めたのである」と、後項を加える例が見られた。

#### 5 訳し分けに伴う訳語の難易度の推移

##### 5.1 教育基本語彙による

この節からは、訳し分けに伴う訳語の難易の差について、難易度を示したデータおよび教科書の

初出情報に沿って論じたい。まず、国立国語研究所(2009)の教育基本語彙データベースにある「語彙配当」を用いて実証する。これは、7種の教育用基本語彙を統合して求めたものである<sup>1)</sup>。小学校低学年がレベル1、高学年がレベル2、中学校がレベル3の計**3段階**である。

本分析資料の訳し分けの中には、教育用基本語彙データベースに含まれない語を訳に用いた例も存在する。a「その妻が北軍(清軍)の兵士に拉致された」、b「その妻が清軍の兵士に連れ去られた」の「拉致する」、a「朝に晩に怒鳴られ打擲(ちようちやく)され」、b「朝に晩に怒鳴られたり打たれたり」の「打擲する」、a「朱夫人を見た婆やは、仰天して報告に馳せ帰った」、b「婆やは朱の妻の顔を一目見るなりびっくり仰天、家に駆けもどって」の「馳せ帰る」、「駆け戻る」といった複合動詞は、教育基本語彙のデータ内に見られない語であった。本稿では、一般向け訳/子ども向け訳ともに採択されている全185組に分析対象を限定している。

その全体の内訳(延べ数)は以下の通り。

表2 教育基本語彙の3レベル全体の分布

|        | 一般向け訳 |       | 子ども向け訳 |       |
|--------|-------|-------|--------|-------|
|        | 数     | %     | 数      | %     |
| 低学年レベル | 80    | 43.24 | 143    | 77.30 |
| 高学年    | 50    | 27.03 | 34     | 18.38 |
| 中学校    | 55    | 29.73 | 8      | 4.32  |
| 計      | 185   | 100   | 185    | 100   |

子ども向けでは、80%近い以上の143語が小学校低学年レベルの語であった。一般向けの訳でも低学年レベルの語が多く見られる。

この一般向けの訳語と子ども向けの訳語に対応させ、一般向けよりも子ども向けの方がやさしい例を「Ⅰ 易化」、一般向けよりも子ども向けの方が難しい例を「Ⅱ 難化」とし、両方で難易度の

変動がない例をⅢ「変動なし」として表3に分類した。前掲①の例a「告げる」は、小学校高学年レベル、b「話す」は、小学校低学年レベルであり、「Ⅰ易化」の例となる。

低学年レベルとされる語の中には、「思う」や「感じる」、「努力する」など様々な語種の語が含まれており、各レベルの中でも語によって難易度に差があるものと思われる。そこで、上記7種の教育基本語彙のうち、何種類の基本語彙の資料に採用されているかについても考慮した。より多くの基本語彙に採用されている方をやさしい語と仮定する。例えば、前掲②a「物語る」・b「話す」は、いずれも小学校低学年のレベル1であるが、「物語る」は、3種の基本語彙に、「話す」は、6種の基本語彙に属しており、基本語彙への採択数の多い「話す」の方がよりやさしいと考えられる。よって、Ⅲ「変動なし」は、3段階の「語彙配当」と基本語彙の種類の数も一致する例となる。

表3 一般向け/子ども向け訳の難易差 教育基本語彙による

| 一般/子ども  | 延べ      |       | 異なり |       |
|---------|---------|-------|-----|-------|
|         | 数       | %     | 数   | %     |
| Ⅰ「子」で易化 | 116(86) | 62.70 | 102 | 60.36 |
| Ⅱ「子」で難化 | 42(17)  | 22.70 | 40  | 23.67 |
| Ⅲ 変動なし  | 27      | 14.59 | 27  | 15.98 |
| 計       | 185     | 100   | 169 | 100   |

表3の結果、易化の例が60%以上を占めるという結果となった。易化の延べ116組のうち、86組が語彙配当のレベルに差のある例(一般向け訳がレベル3/子ども向け訳がレベル1など)であった。次いで、子ども向け訳で難易度の上がる例が多い。全42組中17組が語彙配当のレベル差のある例であった。

以下に、作品内に出現した度数2以上の訳し分けの例を挙げる。左が一般向け訳、「一」の後に続く右が子ども向け訳である。

## I 子で易化

誠める(レベル3・2種)—言う(レベル1・6種) 承る(レベル2・2種)—承知する(レベル1・6種) 持参する(レベル2・2種)—持つ(レベル1・6種) 賜る(レベル3・2種)—与える(レベル1・5種) 告げる(レベル2・4種)—話す(レベル1・6種) 臨む(レベル3・3種)—向かう(レベル1・4種) 設ける(レベル3・5種)—開く(レベル1・6種)

及第する(レベル2・2種)—合格する(レベル2・4種) 濡らす(レベル1・5種)—する(レベル1・6種) 戻る(レベル1・5種)—帰る(レベル1・6種)

## II 子で難化

入れる(レベル1・6種)—雇い入れる(レベル2・1種) 昇る(レベル1・6種)—出世する(レベル2・3種)

ここでレベル差の大きかった「易化」の例(⑭)、「難化」の例(⑮)、「レベル差のない「変動なし」の例(⑯)を挙げる。

⑭ a おたがい長いあいだ貧乏暮らしをしてきたが、大金を手に入れることができる方法を会得した。

(レベル3・3種)

b おたがい長いあいだ貧乏暮らしをしてきたが、今度、大金を手に入れる方法を覚えた。

(レベル1・7種) (亡者の金もうけ)

⑮ a (中略) 驚いて、「あなたに恨まれる筋合いもないのに、殺すとはひどいではありませんか」と言うと、

(レベル1・6種)

b 朱は驚いて抗議した。「わたしはあなたに恨まれるようなことをした覚えはありません。それなのに殺すとはひどいではありませんか」

(レベル3・5種) (首のすげかえ)

⑯ a 朱は妻の部屋の戸に門がかかっているのではないかと思ったが、陸が近づいてちょっと押すと、扉はひとりでに開いた。(レベル1・6種)

b 朱は開けることができないのではないかと心配したが、陸判官が近づいてちょっと押すと、扉はひとりでに開いた。(レベル1・6種)

(首のすげかえ)

⑭は、中学校レベルの「会得(する)」を、それと意味が重なる、低学年レベルの「覚える」として用いる。⑮は、一般向けの基本動作を表す「言う」だけでは、その後に続く会話文に見られる、相手を批判する調子は伝わらない。小学生向けでは、あえて中学生レベルの訳語で難易度を上げて、「抗議する」と表現し、場面を規定している。⑯は、「思う」「心配する」ともに低学年レベルで、より多くの基本語彙の資料に見られる基本的な動詞であるが、⑮と同様、「思う」と広くとらえていたものを、「心配する」とすることで、登場人物の気持ちを限定して伝えている。

## 5. 2 児童・生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査による

次に、工藤(1999)の設定した、外国人児童生徒に対する基本語彙を用いて分析する。これは、成人を対象とする『日本語教育のための基本語彙調査』と子ども用資料を含む計6種の資料から3種類以上の資料に共通する語として、1755語が抽出され、これを「基本語A」としている<sup>2</sup>。『日本語教育のための基本語彙調査』が認定した「基本語二千」(2030語)と比較し、両者に共通する1558語が「成人、児童生徒を問わず、言語生活上必要不可欠な基本語彙」(工藤1999:3)と説明する。加えて「基本語A」のみに現れる197語、子ども用資料2種類に共通する655語の計852語がリスト6「専門家の判定の対象となる語」に示されている。前掲①の例a「告げる」は、上記リスト上にはない語、b「話す」は、「基本語A」と「基本語

二千」に共通するリスト3 (1558 語) の中に含まれる。また、前掲③a「起こす」は、「基本語A」・「基本語二千」共通のリスト3 (1558 語) 内にあり、b「ひっくり返す」は、リスト6 (852 語) 内に見られるため、いずれも児童生徒対象の基本語彙となる。

そこで、本稿の一般向け訳、子ども向け訳が児童生徒向けの語彙を示すこの 1558 語と 852 語のリスト内の語に含まれるか否かを見た (延べ数)。表4に示す。括弧内に示したのは、リスト6の852語に該当する例の数である。

表4 児童・生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査  
リスト7有/無の全体の分布

|            | 一般向け訳 |       | 子ども向け訳 |       |
|------------|-------|-------|--------|-------|
|            | 数     | %     | 数      | %     |
| I.リスト7にあり  | 54(2) | 29.19 | 115(6) | 62.16 |
| II.リスト7になし | 131   | 70.81 | 70     | 37.84 |
| 計          | 185   | 100   | 185    | 100   |

一般向けでリスト7にない語が多く訳に選ばれ、一方の子ども向けでは、リスト7にある語が訳語に多く見られる。

この一般向けでリスト7 (1558 語+852 語) のリストにない語から子ども向けでリスト7にある語への訳し分けをI「リスト無→有」とし、一般向けのリスト7にある語からリスト7にない語への訳し分けをII「リスト有→無」、リスト7にある語同士の訳し分けをIII「変動なし」として、以下の表5に分類した。括弧内は、変動なしで、一般向け、子ども向けともにリスト内の語で訳していた例の数をさす。

表5 一般向け/子ども向け訳の難易差 児童・生徒に対する  
日本語教育のための基本語彙調査による

| 一般/子ども   | 延べ     |       | 異なり    |       |
|----------|--------|-------|--------|-------|
|          | 数      | %     | 数      | %     |
| I.無→有    | 119    | 64.32 | 107    | 63.31 |
| II.有→無   | 40(34) | 21.62 | 38(31) | 22.49 |
| III.変動なし | 26     | 14.05 | 24     | 14.20 |
| 計        | 185    | 100   | 169    | 100   |

リスト7にない語からリスト7にある語へと訳す例が最も多く、前節の教育基本語彙の結果と同様、全体の6割以上を占める。

以下の2例は、子ども用資料4種のうち2種に共通する語(655語)に該当する語を子ども向け訳に用いた例である。前節の教育基本語彙のレベルでは、いずれも同レベル(低学年レベル)内の難化とされた例であった。

前掲③a 崩れた土塀のかげや草むらを歩きまわって、石を起こしたり穴を掘ったり、打てるだけの手を打ってみたが、(レベル1・6種)

b 崩れた土塀のかげや草むらを歩きまわって、石をひっくり返してみたり、穴を掘ってみたり、打てるだけの手を打ってコオロギを探しまわったが、(レベル1・5種)(コオロギと少年)  
⑰a 生きた心地もなく、声をたてられぬまま、そっと足をのばして仲間たちを蹴ってみたが、一同びくりともしない。(レベル1・6種)

b 生きた心地もなく、声をたてることもできずに、そっと足をのばして仲間たちをつついてみたが、一同びくりともしない。(レベル1・5種)  
(宿屋の怪)

一般向けの訳が基本動作を表す③a「起こす」、⑰a「蹴る」となるのに対し、難易度を上げて③b「ひっくり返す」、⑰b「つつく」と表現するこ

とで、石を裏表にする様子やつま先で仲間の背中を軽く突く場面がありありと想像できる。

### 5. 3 学校教科書の初出

第三の難易度を測る指標として、国立国語研究所「書き言葉均衡コーパス」(以下 BCCWJ) の各種教科書 (2005—2007) における初出情報を見た。BCCWJ の中には、小学校から高等学校の教科書 (2005~2007 年) から無作為抽出された 412 件、約 90 万語のサンプルがある。オンライン上で公開されている「少納言」でその検索を行い、一般向けと子ども向けの訳でどちらが初出の学年が早いかで難易度を判断した。

前掲①の例 a 「告げる」は、中学英語 (『NEW HORIZON English Course 3』(東京書籍) に初めて登場し、b 「話す」は、小学一年国語 (『こくご一上 かざぐるま』光村図書) や『新編 あたらしいせいかつ 1・2 上』(東京書籍) に初めて登場するため、「I 易化」の例となる。

前掲③ a 「おこす」は、小学三年理科 (『新編 新しい理科』東京書籍) が初出で、③ b 「ひっくりかえす」も小学三年国語 (『国語三上 わかば』光村図書) が初出となるため、この場合、変動なしの同レベルとみなす<sup>3</sup>。表 6 にその結果を示す。

表 6 初出による一般向け/子ども向け訳の難易差

| 一般→子ども    | 延べ  |       | 異なり |       |
|-----------|-----|-------|-----|-------|
|           | 数   | %     | 数   | %     |
| I 「子」が易化  | 121 | 65.41 | 110 | 65.09 |
| II 「子」で難化 | 36  | 19.46 | 34  | 20.12 |
| III 変動なし  | 28  | 15.14 | 25  | 14.79 |
| 計         | 185 | 100   | 169 | 100   |

5. 1 と 5. 2 の結果とほぼ重なる。一般向けより子ども向けの方が初出の学年が早い=やさし

い例が過半数以上となっており、次に一般向けより子ども向けの方が初出年度の遅い=難化の例が多いという点も共通する。

さて、前掲⑦ a 「蹴る」は、小学 5 年国語 (『国語五下 大地』光村図書) が初出であるのに対し、「つつく」は、サンプル抽出の BCCWJ 内には見られなかった。そこで、光村図書 (2011) の『語彙に着目した授業をつくる』で光村図書の小学校国語教科書の本文中に提出された語をまとめた「語彙表」の初出の情報、ならびに光村図書が認定した「学習基本語彙一覧表」も併せて見ていった。例えば、「蹴る」は、小学 1 年国語下に、「つつく」は、小学 4 年国語下に採用されており、「蹴る」から「つつく」へ難化するという 5. 1 と 5. 2 の結果を裏付ける結果となった。この他、BCCWJ のサンプル内に見られなかった例を以下に挙げる。

| 一般向け |        | →  | 子ども向け |        |
|------|--------|----|-------|--------|
| 命じる  |        |    | 言いつける |        |
| 初出   | 学習基本語彙 | 易化 | 初出    | 学習基本語彙 |
| 小六   | あり     |    | 小二上   | なし     |
| 飛び出す |        |    | 逃げ出す  |        |
| 初出   | 学習基本語彙 | 難化 | 初出    | 学習基本語彙 |
| 小一上  | あり     |    | 小二下   | なし     |
| 悔やむ  |        |    | 後悔する  |        |
| 初出   | 学習基本語彙 | 難化 | 初出    | 学習基本語彙 |
| 小六   | あり     |    | 小六    | なし     |

### 5. 4 難易度の総合的考察

教育基本語彙、児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙、学校教科書の初出情報のいずれにおいても易化の例が 6 割以上を占め、次いで難化が 2 割前後見られる点も共通している。よって、本分析資料の子ども向け訳は、過半数以上が一般向け訳よりもやさしい語が選ばれていた。その一方で、一般向けよりもむずかしいとされる語を子ども向けの訳とする場合も少なからず存在する。その理由として、一般向けで読み手の想像力に頼



り、広汎な意の動詞で単純化させて描写するのに  
対し、子ども向けでは、状況を的確に描写しようと、  
当該の場面を仔細に表現する動詞を用いたもの  
と思われる。これにより、作品世界のイメージ  
を固定化でき、読み手の子どもに対し、想像力を  
求めることはない。

⑱a そこに待たせておき、まず母親のところへ行  
ってこれを話すと、

b連れて帰って書齋に待たせておき、まず母親  
のところへ行って、小倩（しょうせん）を連れて  
帰ってきた次第をくわしく打ち明けると、母親は  
目を丸くして驚いた。（生き返った美女）

⑱a と言うので、破られたところを見てみると、  
銅銭ほどの瘡蓋ができていたが、

b と言うので、引き裂かれたところを見てみる  
と、銅貨ほどのかさぶたができていたが、  
（化けの皮）

⑱a 「話す」は、初出が小学一年の国語、小学  
一二年の生活、図画工作の教科書であり、⑱b 「打  
ち明ける」の初出は、中学校の国語であった。教  
育基本語彙では、「話す」・「打ち明ける」ともに低  
学年レベルとされるが、「話す」の方が語彙資料の  
種類が多い。「話す」がリスト7内、「打ち明ける」  
がリスト7外である。主人公の寧が寺にいた幽霊  
の娘・小倩を仕えの身に家へ連れ帰るという場面  
である。小倩との出会いからその連れ帰るまでの  
顛末を家に住む母親に向かって、ただ「話す」で  
はなく、「打ち明ける」とすることで、言い出しに  
くい話をするという寧の心情がうかがえる。

⑱は、a 「破られたところ」、b 「引き裂かれ  
たところ」とは、王の腹をさす。⑱a 「破れる」は、  
小学一年国語、小学一二年の図画工作で登場し、  
「引き裂く」は、BCCWJ にも光村図書学習基本  
語彙にも見られない。教育基本語彙では、「破れ

る」・「引き裂く」ともに低学年レベルとされるが、  
「引き裂く」は、2種の語種資料にしかしか見ら  
れない。「破れる」がリスト7内、「引き裂く」が  
リスト7外である。「引き裂く」とすることで、女  
の化け物のしわざによって生じた王の腹がいかに  
悲惨な状況かが伝わってくる。

## 6. 話しことばの再現

『聊齋志異』の子ども向け訳で特徴的だったの  
は、一般向けで地の文で訳していたものを、子  
ども向けの訳では、話しことばや会話体にして表現  
する例の存在である。「文章語」とされる表現を話  
しことばの語彙や俗語に書き換える場合よりも  
とダイナミックな変換がここでは起きている。

⑳a 部郎に空き家になっている屋敷の借用を申  
し入れた。

b 局長に空き家になっている屋敷を貸しても  
らえないかと頼んだ。（かわいい幽鬼たち）

21a これまでの苦勞をつぶさに訴え、ついでに  
弟の所在を尋ねてみた。

b これまでの苦勞の一部始終を訴え、ついで  
に弟がどこにいるのかを尋ねてみた。（兄と弟）

22a 陳氏が門に待ち構えて跪き、泣き泣き起死  
回生の法を求めた。

b 王の妻が門に待ちかまえてひざまずき、泣  
き泣き王を生き返らせるにはどうしたらよいか聞  
いた。（化けの皮）

「漢語」の「漢語」型のまとまりを動詞にひら  
いている。こうした地の文に組み込まれた動詞の  
パラフレーズのほか、地の文を会話文に変えて独  
立させる例が見受けられた。また、一般向け訳で  
会話のやりとりの間に地の文を挟んでいたものを、  
子ども向け訳では、会話文の連続となる例もある。

23 a 「…どうにも解せないでございます」

(鬼の国と竜宮城)

とのこと。公は笑って、

「その金盃はきっと羽化登仙したのですよ。」

b 「…不思議に思っているでございます」

「ははは、その金杯はきっと羽がはえて天に昇ってしまったのでしょう。」

(狐の嫁入り)

24 a 底に石が鎮座しているのが見えた。驚喜して、裸になって水に入り、抱えだした。

b 水の底に石があるのが見えた。

「あつた！」

那は裸になって水に入り、抱えだした。

(雲が湧く石)

25 a 「今日はひとつお願いがあつて参ったのです。以前と同様に話を聞いてくれませんか」向き合つて座り、用件を尋ねると、

「あなたの姪御さんがひとりでいらっしゃるので、嫁に来ていただけないかと、…」

b 「今日はひとつお願いがあつてきたのです。

昔のように話を聞いてくれませんか」

「わかりました。そのご用と言うのはなんですか」

「実は、わたしは、あなたの姪御さんがまだひとりでいらっしゃるので、…」

(幽鬼の村)

26 a 「はは、これはあくまで余興です。この顔売り物に榮達をはかる気はありません」それでも主人からたつと勧められて承知した。

b 「はは、これはあくまで余興です。この顔売り物に出世しようなどとはおもいません」

「いやいや、そんなことはいわず、ぜひやってみてください」

「それでは、一度だけやってみましょう」

23 「笑う」、24 「驚喜する」、25 「尋ねる」、26 「承知する」・「勧める」の動詞の意味の核となる部分を「ははは」の感動詞や実際にその動作を行う際の発言内容（「あつた」、「なんですか」、「やってみましょう」、「やってみてください」）に持たせることで、一般向けと子ども向けの訳出の意味も保持しつつ、登場人物のそばで会話を聞いているような、生き生きとした臨場感が生まれている。

## 7. まとめ

中国文学『聊斎志異』の訳し分けでは、湯浅(2015)の海外翻訳作品の「訳し分け」と同様、その形式的特徴には共通性が見られる一方、本分析資料を通し、疑問の形で漢語をパラフレーズする、地の文から会話を創り上げるという、子どもに向けた訳を形成する新たな要因を得ることができた。

また、訳し分けに伴う難易度の移行について、教育基本語彙が元とする資料数の多寡を調査に加えた結果、小学校低学年、高学年、中学校という3レベルの大まかな分化でしかなたった語彙配当よりも微細なレベル差を導くことができた。さらに、児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査や各種教科書の初出学年によって、一般向けよりも子ども向けの方が60%の割合でやさしくなっているという分析結果を補強することができた。

「子ども向け」の訳では、一般向けの訳から解放され、訳者が思い描く「子ども」像に合わせ、場面が明確に伝わるよう、人物の動きで可視化させたり、結果を先回りして示すなどの工夫を凝らして表現していた。こうした現象から、語を子ども向けに換えるということは、教育基本語彙の難

易度による分析結果でも明らかなように、必ずしもやさしい語を選ぶだけで成立するものではないと言える。あえて難しい語を子ども向けに選択する理由について、今後も考察を続けていきたい。

## 参考文献

- 甲斐睦郎監修・松川利広編(2011)『語彙に着目した授業をつくる』光村図書出版
- 工藤真由美(1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- 国立国語研究所編(2009)『教育基本語彙の基本的研究-増補改訂版-』明治書院
- 野村雅昭・柳瀬智子(1979)「児童読物の語彙構造」『計量国語学』12(2) 計量国語学会
- 湯浅千映子(2009)「小学生新聞の言い換え操作—動詞を対象に—」『日語日文学研究』70号 韓国日語日文学会
- 湯浅千映子(2010)『現代日本語の文章における読み手の年齢差に応じた表現の類型』学習院大学人文科学研究科博士 学位論文(未刊行)
- 湯浅千映子(2010)「小学生向け文章の書き分けの諸相—携帯電話の取扱説明書を資料に—」『日本語・日本語教育研究』1号 日本語・日本語教育研究会
- 湯浅千映子(2015)「受容年齢層による動詞使用の差異：海外文学の日本語訳の場合」『埼玉大学日本語教育センター紀要 9』

- 
- 1 阪本一郎(1958)『教育基本語彙』・阪本一郎(1984)『新教育基本語彙』、田中久直(1956)『学習基本語彙』、「池原楯雄(1957)『国語教育のための基本語体系』、児童言語研究会(1962)『言語要素指導』、中央教育研究所(1984)『学習基本語彙』、国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』
  - 2 国立国語研究所(1984)『日本語教育のための基本語彙調査』、国立国語研究所(1992)『簡約日本語の創成と教材開発に関する研究』、文部省(1992)『にほんごをまなぼう』、大久保愛(1971)『幼児のこくご絵じてん』、林四郎(1991)『はじめての国語じてん』、村石昭三(1982)『こどもことばえじてん』
  - 3 東京書籍『NEW HORIZON English Course 3』「1. スピーチのときに、「あがってしまつて、ドキドキしています」と告げる」  
光村図書『こくご一上 かざぐるま』「はっきり はなそうはなす・きく みんなに しらせたい こと なつやすみに、なにを しましたか」  
東京書籍『新編 あたらしいせいかつ 1・2上』「たんけんしたい ばしょを はなしあおう」  
東京書籍『新編 新しい理科 3』「中央にあるとうの先の部分にかさねて当て、そのねつで、電気をおこしている」  
光村図書『国語三上 わかば』「そして、ふとんからはね起ると、三年とうげに行き、わざとひっくりかえり、転びました」